

ふくい社会福祉

ふれあいネットワーク

2
No.367



温故知新 ～一途に社協道～



広報紙「ふくい社会福祉」は昭和40年10月に第1号を創刊して以来、福井の「ふくし」ドラマの一部を切り取って、皆様にお伝えし続け、今号で第367号（総発行回数は371回）を迎えることが出来ました。どの号にも地域の暮らしを良くするために活躍されてきた方々の生き生きとした表情、夢や願いがぎっしりと詰まっています。

これからも「ふくい社会福祉」を通じて、「福井のふくし」、「福井県民の幸せ」を紡いでいきたいと思ひます。

- ◆幼稚園・保育所の一体化
- ◆多様な保育サービスの提供
- ◆ワーク・ライフ・バランスの実現

以上、このような骨組みで検討されている新システムですが、保育関係者や児童福祉関係団体からは反対意見や要望が相次ぎました。

特に議論の中心となっているのは、「幼保一体化」です。

保育園と幼稚園、それぞれの機能が違う中、待機児童対策として浮上したのではないかという意見に対し、国（厚生労働省）としては、同じ国に暮らす子どもにも格差があってはならないことから、幼稚園と保育園を一体化させ、すべての子どもたちに良質な成育環境を提供したいと説明しています。一体化の方法も複数の案が挙げられており、今後も議論が続いていきます。

次に、施設環境・人員・運営の基準についてですが、地方への権限移譲が進む中、児童福祉施設最低基準等も地方で条例化させる方向で、関係法案が国会で継続審議されています。これまでの国の最低基準を下回る地域が出てくることも予想され、地域格差が子どもに与える影響を懸念せざるを得ないという声も聞かれます。

また、このシステムの財源は、子ども・子育て財源を一本化して市町村に交付することが想定されており、地方財源も活用して具体的事業を実施していく仕組みです。現在、この案に知事会や市長会等は、反対姿勢を崩していません。

2 本県の動き

全社協が緊急に開催した11月のフォーラムには、本県からも保育関係2団体、児童福祉施設関係2団体が参加し、子どもの育ちのために、今後、各団体が結束し、要望をあげていくことで合意しました。

これを受け、福井県社協保育部会は、児童福祉施設関係の他団体と連携し、県へ次の要望をしていく予定です。

【県への要望事項】

- ①保育制度を維持すること
福井県では待機児童もほとんどなく、また全国的にも学力が高い本県の子育てシステムを今後とも維持していただきたい。
- ②仮に新システムとなっても、児童福祉施設の最低基準の改善、食事設備、人員配置の3点については現行のままとしていただきたい。

全国組織においてもここ二、三年は同様の動きをしており、国に対して要望を行うとともに、各都道府県保育関係団体役員が地元議員を訪ねています。本県にあつては、竹内保育部会長、海道保育士会長が平成22年12月、福井県選出議員全員に直接、要望しました。



稲田衆議院議員へ要望書の提出

3 今後に期待

平成23年度予算案が示され、厚生労働省の予算案は大幅な増額、雇用均等・児童家庭局の予算は2兆7,738億円で対前年度比21・3%増加しました。

子ども手当の増額と待機児童ゼロ特命チーム「国と自治体が一体的に取り組む待機児童解消『先取り』プロジェクト」推進のための交付金が

増額の大半を占めています。

その一方で「子ども・子育て新システム」作業グループ基本制度ワーキングチームにおける、質の改善に関する協議では、就労期間が長いほど（全産業平均との間で）賃金格差が広がるという現状を改善すべきとの提案がなされました。

また、職員配置について現行では、保育園、幼稚園とも適切なサービスを提供する上で厳しい状況に置かれています。平成16年度の公立保育所運営費の一般財源化により、保育士の非正規化が進み、保育材料費や給食費が削減される等の問題が生じた経緯もあり、現場からの意見や提案を踏まえた上での新制度構築と予算配分が求められます。

昨今、子育ては私的責任から社会的責任に変わってきており、今回の新システムもそれを踏まえた制度となっています。したがって児童福祉に携わる関係者は、我が国のすべての子どもの育ちが等しく保障されるよう、尽力していかなければなりません。

将来を担う子どもたちを主体とした、最善の制度となるよう、今後とも児童福祉関係者、団体・機関が常に連携し、あるべき姿を探索し続けることが求められます。

いざという時、社協はどう動くべきか!?

Vol.1

「災害を想定した社協相互支援『実地訓練』」の検証（県社協編）

平成22年11月28日（日）、災害時における社協間の迅速な相互支援体制を作り上げるため、県社協とすべての市町村社協が参加する実地訓練を行いました。この訓練は、平成18年8月、災害時に社協ネットワークを活かした被災地支援に取り組むため、17の市町村社協と県社協が「災害時における社協ネットワークによる相互支援協定」を調印・締結してから、毎年行っているものです。そこで、本号と次号の2回にわたり、この訓練の振り返りと訓練から見えてきた成果・課題を検証します。

【訓練の流れと課題整理】

7:02 地震発生

《想定》嶺北地方（永平寺町）、嶺南地方（美浜町）を震源とした地震発生。最大震度6強。



Action 1

7:15 緊急連絡・参集

- 1 緊急連絡網による、情報伝達
職員の緊急参集指示
- 2 事務所から8km圏外居住職員
については最寄りの市町村協
への立ち寄りと被害状況の確
認を指示
- 3



参集してきた職員及び被害状況をボードに記入

訓練で得られたこと

- 緊急参集過程での周辺地における被害状況を把握
- ・周辺の被害状況を早期に把握
- ・市町村協の拠点機能を活かした情報収集

課題（改善策）

- 電話以外の連絡網がない。
- ・電話、メール等複数手段での連絡網の確立

- 被害状況の確認項目にばらつきがあった。
- ・被害状況確認事項の標準化（チェックリスト化）



館内状況を報告する職員

課題（改善策）

- 被害状況の確認項目（場所）を標準化していないため、情報が重複。
- ・センター状況確認事項の統一と徹底（チェックリストの作成）
- 指定管理者（県社会福祉センター）としての対応強化
- ・利用者の避難誘導等のマニュアル化
- ・センター機能の活かし方の検討（物品の搬入搬出ルート、被災者の待機場所等）

Action 2

8:30 県社会福祉センター及び周辺の被害状況把握

- 1 第一次、第二次参集職員による
社会福祉センター内外の被害
状況の確認（報告）



各課長より事務局長にセンター被害状況等が報告される

災害における県市町村社協による対応状況

協力期間	活動先とその内容
H7.1～2月	兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災） 県市町村協職員38人が被災地の社協活動に協力 ボランティアの派遣、活動斡旋 介護物品の受付、提供
H9.1～3月	ロシアタンカー重油流出事故 県市町村協職員延べ160人が被災地域の社協活動・災害ボランティアセンターの運営に協力 支援物資の募集・受付、ボランティア活動拠点への搬出
H12.4～5月	有珠山噴火 県社協職員2人が被災地の社協活動に協力
H16.7～8月	福井豪雨災害 県市町村協職員、延べ682人がボランティアセンターの運営と社協活動に協力 県外社協職員1,019人の受入、派遣調整
H16.10月	台風23号豪雨災害 市町村社協職員22人が被災地の社協活動に協力
H16.11月	新潟県中越地震 県社協職員2人が被災地の社協活動に協力
H19.3月	能登半島地震 県市町村協職員延べ167人が被災地の社協活動に協力
H19.7月	新潟県中越沖地震 県社協職員2人が被災地の社協活動に協力

県社協による被災地支援の状況と支援体制強化に向けた取り組み

近年発生した災害と県内社協による対応（概況）

社協は、これまでも県内の被災地支援のほか、県外の被災地への職員派遣と、現地社協による災害支援やボランティアセンターの運営に協力しています。

また、救援物資の募集・受付、現地への搬出等の活動も行っています。

Action 3

9:00~
情報収集・整理
初動体制の構築

- 1 市町社協および関係機関からの情報収集と整理
- 2 県災害対策本部、県災害ボランティアセンター連絡会等の動向把握と、「応急対策・初動方針検討会議」の開催



被災地や関係機関と連絡をとり情報を収集

訓練で得られたこと

- 効率的な先遣隊派遣手続きの確認
- 早期における市町社協との協働体制づくりの確立



集められた情報をもとに、初動方針を決定

課題（改善策）

- 応急対策会議等の動きが、目視しづらい。
- 課ごとに業務を分担することで情報収集・伝達ルートが分散。
- 会議の開催場所や協議過程の見える化
- 指揮命令、情報伝達システムの体系を共有



手際よく、炊き出しの作業をする職員

Action 4

11:45
訓練終了

10:00
炊き出し

- 1 避難所（社会福祉センター）を想定した炊き出し（おにぎりとトン汁）

訓練で得られたこと

- 避難所運営のイメージづくり
- 炊き出し支援における時間配分や手順の明確化

課題（改善策）

- ガスが使えない場合の想定
- ・非常食、非常用器具を使った炊き出し方法の検討

【おまけ】

平成19年度から実施しているこの訓練も、当初は、一部の役員に限定したものでしたが、会を重ねる度に、「緊急連絡」、「職員参集」訓練などのプログラムを強化するなど、職員が当事者意識を持って参加する形態へと見直しを図ってきました。これにより、一人一人が何をすべきかを意識し、訓練に臨む風土づくり

がすすみました。

また、今回からは、参集時における市町社協への立ち寄りや被害状況の把握訓練も新たに取り入れ、市町社協とのネットワークを活かした、迅速で客観的な情報収集の選択肢が増えたほか、炊き出し訓練によって、社会福祉センターに避難した方々への支援に対しても、より臨場感を得

ることができました。

今回の訓練で明らかになった課題については、早い段階での解決を図っていきませんが、地域福祉の視点に立って被災地（者）支援に取り組む手法やノウハウを市町社協と共に積み上げていくことが、県内社協に共通する継続的な課題となっていま

被災地支援のための人材の育成

被災地支援を担う社協職員としてのスキルアップを図るため、平成18年度より、職員の防災士資格の取得や災害ボランティアセンター運営支援者研修（全社協主催）の受講を計画的に推進しています。

防災士とは

防災意識・知識・技能を有し、災害に備えた自助・共助活動等の訓練や、防災・救助計画の立案を行うほか、災害時には、団体・企業や地域などの要請により地域自治体等の公的な組織やボランティアの人達と協働して避難や救助・救命、避難所の運営などを行う。

県社協職員の「防災士」資格取得状況

取得年度	資格取得者数
平成18年度	1名
平成20年度	5名
平成21年度	3名
平成22年度	2名
計	11名

災害ボランティアセンター運営支援者研修受講状況

受講年度	受講者数
平成20年度	県社協1名
平成21年度	市町社協2名
平成22年度	県社協1名
計	4名

福井県民生委員児童委員協議会 第11期新体制スタート!!

福井県民生委員児童委員協議会で、平成22年12月22日(水)、一斉改選後の新理事会が開催され、新体制がスタートしました。

会長には、清川忠氏が再任され、副会長に清水武士氏(鯖江市)、松村信子氏(勝山市)の両氏が選任されました。

平成25年11月までの3年間、清川会長のもと、県下1,813名の委員が一丸となって、安心して暮らせるまちづくりに取り組めます。



新理事会で挨拶する清川会長(福井県社会福祉センターにて)



◆ 正副会長

会長 清川 忠 (福井市)

副会長 清水 武士 (鯖江市)

副会長 松村 信子 (勝山市)

◆ 専務理事

品谷 義雄(県社協)

◆ 理事

安澤 重雄 (福井市)

下田 須榮子 (福井市)

竹田 武 (敦賀市)

篠原 悦子 (敦賀市)

赤崎 雅博 (小浜市)

瀬川 順男 (大野市)

丸子 要 (あわら市)

平野 千代美 (あわら市)

泰圓澄 法嗣 (越前市)

吉田 昭宣 (坂井市)

田中 眞佐子 (永平寺町)

島田 美恵子 (永平寺町)

内藤 忠雄 (池田町)

今村 ゆみ子 (南越前町)

駒野 傳一郎 (越前町)

数内 光子 (越前町)

橘 祥子 (美浜町)

大角 一馬 (高浜町)

杉左近 孝夫 (おおい町)

日置 孝雄 (若狭町)

◆ 監事

飛永 健 (小浜市)

廣部 政見 (坂井市)

福井県共同募金会 役員改選発表

平成二十二年十二月三日の評議員会にて、新役員が承認され、同年、十二月十四日より新体制が始動いたしました。

共同募金が「じぶんの町をよくするしくみ」として使われていることを、多くの県民の方に理解していただき、また、皆さまからの貴重な募金が有効に使われるよう、役員一同取り組んでまいります。

◆ 正副会長

会長 清川 忠

副会長 (清川メッキ工業(株)代表取締役会長) 村上 哲雄

副会長 (敦賀市共同募金委員長) 梅田 正昭

◆ 専務理事

品谷 義雄 (福井市共同募金会委員長)

◆ 理事

毛利 俊則 (福井銀行(株)取締役会長)

吉田 敏貢 (アイビックス代表取締役会長)

三宅 国紀 (日本放送協会福井放送局長)

伊東 博之 (福井新聞社監査役)

玉村味意子 (福井県婦人福祉協議会長)

青木 甫 (坂井市共同募金委員長)

竹内 幸次 (越前市共同募金委員長)

椿坂 繁雄 (大野市共同募金委員長)

宮崎 泰治 (越前町共同募金委員長)

塚本 新一 (若狭町共同募金委員長)

◆ 監事

山下 末吉 (元県ボランティアセンター運営委員長)

郡谷いさを (県社協評議員)

村野 勝 (村野勝税理士事務所長)



神戸希望の灯り 今年も点火

1995年1月17日午前5時46分 阪神淡路大震災

福井県社会福祉センターロビーでは、兵庫県南部地震による震災で亡くなられた方々の鎮魂と、まちの復興のために頑張っておられる多くの方々の明るい未来を願って、「神戸希望の灯り」を灯しました。



寄贈・寄附

ありがとうございました。

12月

カナカン株式会社「乾親会」様（金沢市）
カップ入り即席麺 1, 140食分

【贈呈先】

福井県か児童施設8か所

1月14日 匿名（男性）

乳児用（粉ミルク・離乳食等）

【贈呈先】

済生会乳児院



1月28日（金）

西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部 様
県内乳児院の施設修繕、玩具・器具購入費用として

【贈呈先】

済生会乳児院 100万円
白梅学園 100万円



1月26日（水）

ルネサス関西セミコンダクタ株式会社 福井工場 様
洋服ハンガー400本

【贈呈先】

芦原メロン苑デイサービスセンター
ケアホームさいせい
しるの子保育園
たんぼぼ苑
はぎの保育園
吉江学園



1月26日（水）

匿名（男性）より
老眼鏡 35本
社会福祉センター来訪者のために活用させていただきます。



2月の行事予定

- 3日（木） 福祉施設経営セミナー（自治会館）
- 4日（金） 福井県民間保育園連盟新年懇親会（ユアーズホテル）
- 5日（土） 福井県身体障害者連合会新春のつどい（ホテルリバーージュアケボノ）
- 7日（月） 福井県しあわせ基金顕彰式（福井新聞社）
- 11日（金） ふくい福祉就職フェア（ユアアイふくい）
- 18日（金） ホームヘルプサービス事業者協議会「従事者対象セミナー」（県社会福祉センター）
- 20日（日） れいなん福祉就職フェア（あいあいプラザ）
- 21日（月） 災害実地訓練総括会議（鯖江市健康福祉センター）
日常生活自立支援事業生活支援員研修会（あいあいプラザ）
県民児協30周年記念大会実行委員会（県社会福祉センター）
- 23日（火） 高齢者リーダースキルアップ研修（県社会福祉センター）
- 24日（木） Fパネット「社会貢献活動セミナー」（アオッサ）
- 28日（月） 第5回運営適正化委員会（県社会福祉センター）

企業の社会貢献について考えてみませんか？

社会貢献活動セミナー

主催 福井県企業等ボランティア・社会貢献連協会（通称：Fパネット）

期日 平成23年2月24日（木） 13：30～16：00

会場 AOSSA（アオッサ）7階会議室「706号室・707号室」

プログラム

講演 「優勝までの軌跡～たくさんの思いに支えられて～（仮）」

講師：（株）福井県民球団 社長 新谷 隆美 氏

パネルディスカッション

「福井の企業における社会貢献の実際（仮）」

積極的に社会貢献活動をされている企業の方をパネリストに迎え、取り組み上での工夫や、社員の社会参加が地域に及ぼした影響などを語っていただきます。

参加費 無料

参加申込・問い合わせ先

〒910-8516 福井市光陽2-3-22

福井県社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課内

福井県企業等ボランティア・社会貢献連協会事務局

TEL0776-24-4987 FAX0776-24-0041

メール chiiki@f-shakyo.or.jp

Fパネットとは…

県内の民間企業や団体のボランティア活動や社会貢献活動を推進していく会員組織です。現在44の企業・団体が参加し、効果的な活動展開のための基盤づくりに取り組んでいます。

スマイル

未来に笑顔

Vol.7 「行動力と向上心でどんな課題も乗り越えるパワフルマン！」



プロフィール

くろだ りょう
黒田 遼 さん

(福) 九頭竜厚生事業団
九頭竜ワークショップ第三授産部 生活支援員
「やらずに後悔するより、やって後悔する方がよい！」をモットーに前進し続ける努力家

このコーナーでは、「笑顔 (スマイル)」をキーワードに福祉職の方々に登場いただき、福祉の現場で活躍しているからこそ『見える』『言える』、福祉の魅力について語っていただきます。

コミュニケーションの 大切さを実感

大学時代に心理学を学んできたこともあり、卒業後はそれを活かす仕事に就きたいと思っていました。在学中にヘルパー二級講座を受講し、高齢や障がいの分野について学び、広く福祉の分野に携わりたいと考え、現在の職場に就職しました。



働き始めて以来、利用者さんが、どんなことを考えて、何を求めているのかを知ることが、良い支援につながると思っています。

少しでも、スムーズに利用者の方とコミュニケーションをとれたらと思い、手話の勉強を始めた。精神保健福祉士の資格を取得しようと日々努力していま

す。

利用者さんのペースに合わせて話を聴くことは、難しい時もありますが、話を聴いた後で、「聴いてくれてありがとうございます」と言っていたり、表情が明るくなったりすると、僕の心も温かくなり、励みになります。

また、よい支援のためには、利用者さんだけでなく、家族の方や施設スタッフ、外部の支援機関、地域の方々と、情報を共有し、日ごろからコミュニケーションを持つことを大切にしていきたいです。

仕事でぶつかる壁や つまづきは、向上心の証

仕事で、うまくいかないことや、悩んだりすることはたくさんあります。

でも、なぜ、つまづいたり、壁にぶつかったりするかと言えば、「もつと利用者さんの事を理解したい」とか、「もつと良い支援をしていきたい」という気持ちがあるからだと思っています。

その時は、同僚や先輩達と意見が合わなかったり、自分のふがいなさを痛感したりと、つらいこともあります。疑問や悩みを放っておくより、勇気を持って課題に飛び込むことで、自分のレベルアップにつながると信じています。



笑顔の素

マラソンとギター

笑顔というか元気の源は、マラソンとギターです。マラソンは、職場の先輩に触発され始めました。まだ5キロ程度しか走れませんが、ゴールした時の達成感と爽快感が病みつきになっています。

アコースティックギターは、学生の頃からの趣味ですが、現在、合唱サークルに所属し、仲間と楽しく演奏しています。もつと早く走りたい。もつと上手に演奏したい。同じ目標を持つ仲間と過ごす時間は、元氣(笑顔)の源となっています。



インタビューを終えて

学生の頃は、サークル立ち上げを行うなど活発だった黒田さん。本人は、「後先考えず、突っ走る傾向が…」と謙遜していましたが、その好奇心や行動力が仕事への姿勢にもつながっているようです。

今度はぜひ、ギターの演奏を聞かせてください！